

2011 年度活動報告

はじめに

2011 年度は、日本ハビタット協会創立 10 周年に当たりました。そのための記念事業を検討していたときに、歴史的な規模の東日本大震災が起こりました。10 周年記念事業の検討は差し控えて、当協会の総力を挙げて被災者支援と復興支援に取り組んでまいりました。

東日本大震災支援には外国からの支援をいただき、「世界はひとつ」であると一層強く、深く感じました。そして、当協会による外国での支援も、パキスタン、タイ、ラオスにおいて積極的に実施いたしました。

2011 年度には、地球環境基金、外務省（JANIC を通じて）及び三菱商事株式会社から助成金を受けて、活動を一層積極的に行うことができました。外務省の助成金によって、職員 1 名をラオスでの長期研修に派遣することができました。

当協会を含む認定 NPO 法人に対する寄付金は、2011 年から所得税控除などが受けられるよう税法が改正になりました。このことも 2011 年度の寄付金増に役だったものと考えられます。

以下に 2011 年度の活動の概要を報告いたします。

1. 支援事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

東日本大震災支援活動でできるだけ心がけたのは次の点です。①ハビタットフレンズとの協力、②被災者のニーズに対応、③敏速な実施、④人員・資金の範囲内で完結できる事業の選択、⑤透明性の確保。

震災直後は物資支援が主で、ハビタットフレンズの名をつけた「ハビタットフレンズシップ便」として、仙台若林、陸前高田、石巻河北町、仙台岡田などにトラック輸送を合計 5 回実施しました。詳細は昨年ご報告した通りです。道路、電気、通信などインフラの復旧に伴い、次第に心のケアに重点を移しました。

● 心のケア

津波で破壊された石巻市雄勝町の雄勝小学校は、隣町の河北中学校に間借りして授業をしています。雄勝町が破壊されて他のところに移転した被災者が多かったため、雄勝小学校の生徒数が半数以下に激減しました。校長先生からの依頼を受けて生徒たちをカブけるべく、仙台のサッカーチーム、ベガルタ仙台の手倉森元ヘッドコーチにサッカー教室をしていただき、子どもたちを元気いっぱいにしました。(7 月)

年末には、クリスマスの行事と 2 度目のサッカー教室を催しました。

塩竈で復興祈念イベントに参加し、マリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使の講演と写真展示をしました。(7 月)



● 物資支援

夏には、水道の完全復旧が遅れた志津川保育所に子どもたちのための給水器具（ウォーターサーバー）を贈りました。11月に入り寒さ厳しい仮設住宅在住の被災者などのために、家族ごとに希望を聞いて暖房器具181点を配布しました。（「あったかサポート」）



● 東日本大震災1周年祈念事業

2012年に入って、横浜（2月5日）、東京（3月11日）及び福岡（5月13日）で東日本大震災1周年祈念事業として、朗読、歌、音楽、写真映写のコラボによる「あの日のこと」という舞台公演をしました。被災者の多くの方々が、被災の経験と想いを、被災地から離れた人々にも理解し、心にとどめてもらいたいと願っておられます。この願望に応えるための公演です。三菱商事の助成金を受けました。参加した多くの方々から、感動したとのコメントをいただきました。東京公演では、女川熊野神社奉納の獅子舞が披露され、復興に向けて元気いっぱいの姿が観客に感銘を与えました。獅子舞用頭と衣装は津波で流されたため、日本ハビタット協会が寄贈しました。



● 子どものための自立支援

東日本大震災で親を失った子どもたちは2000人と言われます。この子どもたちが、将来に希望を持って成長し、自立して行けるよう支援をしています。この支援事業は、「子どもの夢ネットワーク」（宮城県、仙台市の里親、児童養護施設、児童相談所、社会福祉協議会、研究者が協力して運営）を通じて実施されます。

● その他

- ・ハビタットフレンズ三島のメンバーたちが、被災地での瓦礫除去活動にボランティア参加しました。
- ・イタリアのミラノ近郊モントヴァにあるサンタ・バルバラ教会でオルガンを勉強している子どもたちが集めた被災者支援寄付金を届けてくださいました。この寄付金は、モントヴァの子どもたちのあたたかい気持ちとともに、雄勝小学校の2012年3月の卒業式のために贈りました。

（2）国際協力事業

● ラオスの学校給水・衛生設備建設事業

給水と衛生設備の両方が整っているのは、小学校のうち24%に過ぎないラオスで、これら設備を建設する事業を2011年初めに開始し、首都ビエンチアンの北200キロにあるシエン・ゲウンの8つの学校で工事を行いました。2011年5月末に完成し、2,884人の子どもたちの保健衛生と環境が大きく改善しました。国連ハビタットとの協力事業です。



● アフリカ障害児・孤児学校生活改善事業

タンザニア北部ビクトリア湖に近いムゲザ学校で、545 人の障害児と孤児たちが学んでいます。その多くが学校に住んでいます。校庭にはまったく舗装がないために、寮、校舎、食堂の間の通路を舗装し、2011 年 6 月に完成しました。障害児の通行が容易になり、建物の中の汚れが減り、水たまりも少なくなった結果、保健衛生と環境が改善しました。JICA の助成金をいただき、タンザニアの女性団体（Tanzania Women Land Trust）及び国連ハビタット本部との協力事業でした。



● パキスタン水害被災者用住居建設事業

パキстанは2010年夏の大洪水で多数の被災者を出しました。当協会は直ちに支援のための募金活動に入りましたが、寄付金の集まりが遅かったため、2011年夏まで募金活動を続けました。同年8月に締め切って、集まった寄付金をパキスタンのNGOであるSEED（Social Education for Environment and Development）に送って、被災者用の住居を建設してもらい



ました。9月に完成し、SEEDの最高責任者から次のような素晴らしいメッセージを受け取りました。「私は出来上がった住居に入ったばかりの家族を訪ねました。そして、あの震災のあった日本の人々からの支援でこの家のできたのですよ、と説明しました。すると、家族たちの頬に涙が流れるのが見えました。私は支援を受ける人たちに多く接していますが、このように感激してもらったのは初めてです。日本

の皆様に深く、深く感謝いたします。」

● 国連ハビタット福岡本部支援事業

2012年3月、福岡県国際交流センターを通じて、国連ハビタット福岡本部の活動資金を送金しました。

● タイ国北部山岳地域での環境保全事業

タイ国北部山岳地域（チェンマイ県サムン郡メーランカム村メーランカム学校）で、ゴミ分別とリサイクル活動による環境保全事業を実施しました。（2011年4月～2012年4月）タイの山岳地帯では、ゴミが山や川に放棄され、土壌と水の汚染をもたらしています。ゴミ分別場を建設して、ゴミの分別回収を実施しました。また、生徒達に環境保全への意識を深めるワークショップを開きました。ミニズコンポスト生産場も建設して、生ごみからのコンポスト生産を進めています。この事業には地球環境基金の助成を受けました。



● タイ国北部学校施設・子どもケア施設改善事業

タイ国チェンマイ県サムン郡のメーランカム学校の施設が老朽化、狭小化したため、女子寮の拡大、食堂の床タイル張り、保健室の拡大の工事をしました。また、チェンライにある、ストリート・チルドレンをケアする施設(” Children’ s Home”)の給水施設の水質保護設備の改善をしました。前プロ野球楽天投手岩隈氏ご夫妻からの寄付金を受けて、これら事業を実施することができました。



2. 広報事業

(1) イベントなどへの参加

GTFグリーンチャレンジへの集い2012(東京8月)、エイズ文化フォーラム(横浜8月)、グローバルフェスタ JAPAN2011(東京10月)、よこはま国際フェスタ 2011(10月)、地球市民どんたく 2011(福岡11月)、よこはま国際フォーラム(2012年2月)などに出展しました。

(2) 企業による国際協力活動

2011年度にも企業による国際協力活動が活発に行われました。書き損じハガキのご寄付をお願いしたところ、住友商事株式会社、全日本空輸株式会社及び成田国際空港株式会社があたたかくご協力くださり、ご寄付合計ハガキ枚数が最近数年で最大となり、深く感謝いたしております。住友商事株式会社からは、さらに、外貨、切手、金券類を多数送っていただきました。

アクセンチュア株式会社は2011年度も外貨コインの仕分けをボランティアとして実施してくださいました。三井物産株式会社は2011年度も社内で外貨を集め、仕分けをして当協会にご寄付くださいました。

(3) 国連ハビタット親善大使の活動・講演

マリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使・当協会副会長は、2011年度にも広く活躍しました。各地で講演を依頼され、そのたびに資料を配って国連ハビタットの活動の広報を行っています。

「あの日のこと」の3回の公演では、その都度トークの司会をつとめ、東日本大震災の復興支援の重要性を多くの方々に広報しました。

(4) まちづくり通信の発行

2011年4月に「まちづくり通信」19号、2012年1月に20号を発行しました。会員、寄付を下された皆様、講演会・イベントへの参加者に広く配布しました。

(5) メディアによる活動紹介

日本ハビタット協会の広報活動の結果、国連ハビタットなどに関する記事は次の通り掲載されました。

- 7月9日 日刊スポーツ 「被災地でサッカー教室」
- 7月16日 石巻 かほく 「被災地に力 慰問の輪」

- 2月20日 クロワッサンプレミアム 「女性ががんばる NPO」
- 3月2日 読売新聞 「あの日のこと」公演事前広報
- 3月6日 神奈川新聞 「あの日のこと」公演事前広報

4. 協会の運営

(1) スタッフを長期海外研修に派遣

当協会のスタッフは人数が少なく、また、財務体力の限界があるため、スタッフの海外研修が思うように実施できませんでした。2011年度に、外務省が募集する海外長期研修の助成金をJANICに申請し、承認していただきました。その結果、篠原大作職員が2011年11月1日から2012年1月31日まで、ラオスのルアンプラバン給水公社で長期研修を受けることができました。篠原職員はこの研修を十分活用し、建設現場の見学、建設の行われる地域の自治体・住民との協議、今後の支援が必要な学校と地域の調査などを行いました。その結果、事業企画を担当している本人の能力を大幅に向上させることができました。また、研修を通じてネットワークを拡大強化することができました。早速企画に、業務に活用されています。

(2) ボランティア活動の強化

東日本大震災の支援事業でハビタットフレンズ仙台とハビタットフレンズ山形が行った活動は今後のハビタットフレンズの活動の手本ともなるものでした。ハビタットフレンズ仙台の方々、自らも被災しながらも、震災後ただちに支援活動に立ちあがった姿は称賛と尊敬を広く受けています。ハビタットフレンズ三島、ハビタットフレンズ・ユースの街頭募金その他のボランティア活動も大変活発に行われました。

「あの日のこと」の公演では、協力団体の方々、当協会でのボランティアは初めての方々も多数支援して下さいました。

成田空港、羽田空港、中部空港、関西空港、福岡空港、長崎空港、熊本空港、博多港国際ターミナルの募金箱に集まったコインなどの回収も、主としてボランティアの方々にしていただいています。

さらに、ボランティアの方々には、月2回行われるボランティアデーに参加してコインの仕分け、ニュースレターの発送もしていただきました。2011年度にボランティアデーは24回実施し、あたらしく参加なさる方が増えたことが目立ちました。